

令和元年度 第1回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時：令和元年5月17日（火） 午後2時より午後4時まで

開催場所：横須賀市役所3階 301会議室

出席者

【構成員】 15人

小山 由紀（代理出席）、森 弘樹、沼崎 真奈美、小林 二三代、増野 宣子、春山 誉夫、磯崎 順子、加藤 春樹、長雄 市子、佐野 美智子、千葉 順子、川名 理恵子、小貫 朗子、田中 知己（順不同、敬称略）、伊藤 弘道（記）

【オブザーバー】 1人

高橋 亮（敬称略）

【事務局】 6人

小林 幸男、河島 夏美、川田 貴久江、中山 ちひろ、馬場 潤、浅羽 優貴佳（敬称略）

【傍聴者】 なし

1. 開会

座長の司会により開会した。

2. 傍聴者の確認、配布資料の確認、自己紹介

傍聴者数の確認を行った後、配布資料の確認を行った。続いて、自己紹介を行った。

3. 議事

(1) 周知啓発について（資料2、3）

多くの方に支え合い活動に参加していただくための周知や、講演会後の働きかけについての意見が出された。

具体的な取り組みは次のとおり。

ア 市民活動サポートセンターや生涯学習センター等において、団体活動を紹介するパネル展示を推進する。

イ 音声や映像を活用、並びに放送媒体の協力による周知も検討する。

ウ 支え合いに興味を持った人をつなぎとめることに注力する。

【主なやり取り】

事務局：「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けるために、健康でやさしい心のふれあうまちの実現」に向けて、全市民を対象として、新たな支え手を創出することが周知啓発の目的である。

高齢福祉課による説明を積極的に行う外、各地域包括支援センター（以下「包括」という。）に対して、年間10回以上の支え合いの説明を依頼しており、構成員の方々

にも協力をお願いしたい。支え合い活動団体を紹介するパネル展示や、講演会による啓発活動にも取り組む。

構成員：パネル展示は張り出すのか。文字が小さくて読めない。興味を持った人が次につながるようにしたい。

事務局：A3版と模造紙版のパネルを用意、場所で使い分ける。講演会のチラシと一緒に置いて、次につながるよう工夫している。パネルに連絡先を入れるなど、更に取り組む。

構成員：市民活動サポートセンターには、センター中央とドブ板通り側の計2か所にパネル展示スペースがある。団体の活動紹介をしている。予約は先まで埋まっているが、調整するので相談して欲しい。汐入を通る方々が良く読んでいます。

構成員：介護予防系の自演DVDは好評だ。音声や映像を活用したPRを検討してはどうか。FMブルー湘南で放送してもらうのもどうか。

事務局：映像や放送については情報を持っており、検討している。

構成員：定年退職した方が、サークルなどで活躍されている。担い手候補である。

構成員：生涯学習センターでは、パネルをじっくり読む人もいます。文字は小さくてもケース・バイ・ケースで使い道はある。パネルが展示できるか検討する。

事務局：パネルは、12枚ある。ご協力をお願いしたい。

構成員：包括による説明の内容は包括で考えるのか。

構成員：地域力推進係から資料が出ている。見せ方を統一して地域でポイントを絞って周知する。包括の情報交換会でも内容の認識を深めている。

構成員：はまゆうクラブよこすかは、月1回の理事会、年6回の女性部研修会、友愛福祉研修会がある。活用してほしい。

構成員：資料3は、読み原稿があれば職員への周知に活用する。

構成員：定年後も働く人が多く、担い手不足になる。今すぐ戦力にならないが、先々はつながれる人がいる。志をもった人は沢山いる。アプローチしたい。

構成員：ボランティアは無料という感覚と、有償活動が噛み合わないことがある。技術を持った人が上手につながり活躍できるといい。働く母親が多いので子どものことをみんなで考えたい。

(2) 支え合い活動の支援について(資料4、5、6)

支え合い活動育成として、①講演会、②支え手養成研修、③情報交換会、④相談窓口の整備、に取り組む。育成活動への動員に注力するとともに、興味をもった人へのフォローを強化するよう提言があった。様々な場面において支え合い活動をアピールするよう、意見が交わされた。

【主なやり取り】

構成員：支え手養成は、第1層と第2層の協議会の連携で進めるのか。

事務局：枠組みは第1層で考える。呼びかけを含めて、地域にあったやり方で第2層と一緒に進める。

構成員：支え手養成研修の内容はどのようなものか。

事務局：今、詰めているところ。去年は、団体を立ち上げることが目標だった。サポートセンター、ボランティア保険、地域包括支援センターの役割、活動のやりがい、事例紹介で構成した。グループワークで理解を深めた。

構成員：支え手養成研修の成果として、活動に立ち上がった人数は。

事務局：50名出席され、9名のマッチング希望者がおられたが、その先につながらなかった。フォロー体制を見直す。

構成員：4つのカリキュラム（講演会、支え手養成研修、情報交換会、相談）を相互にリンクさせることだ。一人の人がそのリンクをどうたどるか、フォローする。

事務局：去年はそこが弱かった。年度前半で講演会、9月、12月の支え手養成研修で成果につなげる。

構成員：新たな顔ぶれが少ない。講演会での工夫はどうか。

事務局：活動団体や町内会に協力を依頼し、顔ぶれを広げる努力をしている。

構成員：興味はあるが、入れなかった人が、活動できるようになる。その循環ができるかと市全体がレベルアップする。そこを狙っているか。

事務局：活動を広く伝えること。活動そのものが生きがいや健康寿命の延伸につながることをお伝えしつつ、様々な事業に結び付けていきたい。

構成員：特定の個人や集団をフォローして育成しないと、現実的には困難ではないか。手を挙げた人が10人いるとして、現状では9人が脱落していくのではないか。

構成員：定年退職した方などで時間に余裕がある方など、何かやりたくてもできない方は支え手の候補になりやすい。今の啓発活動で、そのような方々が来るか考える必要がある。

構成員：私の住む地域にPTA活動に積極的に取り組んでいた方がいるが、若いので60歳代の活動には入れない。まなび館の講師になる研修を受けて、一人で講座を開いているが、参加費が大人一人1回2,000円こども一人600円では、とても参加できない。生涯学習の講師をやりつつ、地域貢献もして頂けるような仕組みをつくる。低価格で講師として来て頂く。そんな仕組みがあると嬉しい。講師を安く頼める仕組みを生涯学習センターでできないか。

構成員：生涯学習センターで講師養成講座を受けた登録講師は参加費を自分で設定している。自らが学んだことを自らの力で広める。そこから先の活動はそれぞれのことだが、その講師がボランティアとして地域貢献するのは別のことであ

る。地域への思いがあればやって貰えるのではないか。学んだスキルを教室とは別に、地域貢献としてやってもらえるとうい。

構成員：仕組みを知らなかったが、育成した講師に、地域への貢献も考えるよう伝えてもらいたい。

構成員：そのくらいはできると思う。

構成員：講演会の申込者は何人か。

事務局：12名。チラシは4月中旬から配布している。

構成員：以前、親、祖父母への周知を目的に学校でのチラシ配布を提案したが、教育委員会に断られたときいたが、なぜか。

座長：教員の負担を増やさないため。ひとつを認めると、歯止めが難しくなる。

構成員：みんなでシェアして伝える方法はないか。

構成員：公立学校がだめなら私学に依頼したらどうか。

構成員：できることからやっていけばいい。コンビニエンスストアは地域に根差しており、来るのは若者だけではない。チラシを置いて貰えないのか。せっかくの講演会、頭使わないと人が集まらない。

構成員：民間企業やスーパーなど協力を得て3,000枚のチラシを配布している。

構成員：1日2時間限りの開催では、予定が合わないと参加できない。DVDにする、貸出ライブラリにする、市のホームページに掲載する、など。難しさはあると思うが、せっかくの講演会を再活用しないと勿体ない。情報交換会の風景も映像で次に伝える。少しでもチャンスを増やす。お金との兼ね合いはある。1回きりで終わらせるのは勿体ない。一般企業であればDVDに撮って全員が見るようにする。

構成員：若い世代にはFacebookなどのネット媒体のアピール度が高い。

構成員：6月2日のふれあいフェスティバルには、ボランティア団体や一般市民が何千人も来場する。パネル展示も含めて、活用できないか。

構成員：市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）の前にチラシを置くことはできる。総合福祉会館のパネル展示は過去に実施しているのを拝見した。空いていれば時期を調整して展示できると聞いている。

構成員：年間を通じてイベントを把握しておき、PRする。職員を配置して説明できたらいい。それが高齢福祉課だけで無理なら、協議体の構成員に依頼すればいい。出られる人に相談して貰えばいい。

別件になるが、鶴が丘では、社会福祉推進委員が立てられない。夏祭りは2日から1日に短縮になる。町内会の役員が高齢化して新しい人が入ってこない。人手不足で、もともとある従来からの活動ができなくなっている。役員は色々な役をやっている。一方的に支え合い活動をやりましょう、だけでは上手くいかない。

構成員：市社協のボランティアセンターに個人登録している人は、何人いるか。

構成員：ボランティアが高齢化し、地域において担い手がいないことはよく聞いているので、減少傾向にあるのではないかと思われる。

ボランティアに対するニーズとそれに合ったボランティア活動との循環がうまくいっていないのではないか。

構成員：人手不足で途切れてしまうことが、ボランティアの力でつながらぬか。そもそも個人ボランティアがどの位いるのか。

構成員：今この場で数字を持っていないので、具体的にお答えできない。そもそも地元のお祭りに、頼んだボランティアに来てもらうことを、地域が希望するかがわからない。市社協のボランティアセンターでそのような依頼を受けているのか、私自身は承知していない。地区のボランティアセンターはどうなのか。

構成員：地域によっては夏休みに中学生にボランティアをやってもらっている。地域のお祭りに、一般のボランティアに依頼をかけることはない。

構成員：地域活動ができなくなっている。それを認識した上で、支え合い活動を進めていかないと、溝が深まる。お互いにメリットがなく、課題が噛み合わないことになりかねない。福祉部高齢福祉課だけではなくて、他の各課も交えて話をして欲しい。市民部、児童福祉、障害など、高齢だけの福祉ではなく、全世代を交えて話をして欲しい。

構成員：もともと地域の支え合いは高齢者だけが対象ではない。自治会、民生委員、老人クラブなどが全体で活動しており、高齢者だけが対象だという認識はない。高齢者だけを分けて認識しているとすれば、認識を改めるようなことを市がやらないと、破たんを来すことはありえる。横断的に進めるべき課題だと思う。

座長：高齢者とか子どもとか、分けができない時代になっている。国も県も市も抜本的に仕事のやり方を変える認識はある。

座長：講演会チラシの配布など、ご意見を踏まえて対応する。配布にご協力いただけるならば、事務局までお願いしたい。

(3) 各地域支え合い協議会の状況（資料7）

大津、追浜、田浦、浦賀の4地域について、高齢福祉課から各地域包括支援センターに生活支援コーディネーターと事務局機能を移管した。北下浦、久里浜は、協議会が立ち上がって間もないため、高齢福祉課が事務局を担う。

各地域の構成員を参集する情報交換会の開催を高齢福祉課で検討している。

地域協議会の立上げや運営の参考事例をまとめる要望を受けた。設立がもっとも早い大津を候補として、事務局にて検討することとなった。

ア 大津

- ・講演会をきっかけに5名がボランティア活動に参加した。

- ・小学校での勉強会の申し入れあり。同校校長をオブザーバーとして協議会に招く方向で検討している。

イ 追浜

- ・支え手養成研修を開催した。オブザーバーを構成員として迎えた。
- ・支え合い団体の広がり期待している。

ウ 田浦

- ・町内会長に依頼したアンケート結果を地図に可視化。
- ・①谷戸の買い出し支援、②ゴミだし、③通いの場の創設、に取り組む。

エ 浦賀

- ・地域課題を共有し、今後の取り組みを検討する。
- ・団体に限らず、有志による活動も含めて、支え合い活動の情報を整理する。

オ 北下浦

- ・支え合い協議会の役割の共有と目的について検討している。

カ 久里浜

- ・地域課題の共有と今後の進め方を検討する。

構成員：地域運営協議会（以下「地運協」という。）との関係性はどうか。

事務局：地運協と支え合い協議会の目的が合致しているのが望ましいが、目的が異なる地域もある。地運協の福祉部会で支え合いをテーマにしていた地域は、その活動を協議体に移し、その他を地運協で取り組むという整理をしている。ある地域では地運協の理事会が終わった後の夜の部に、介護事業所や地域包括センターの方に参加していただき、構成員として検討している。地域によって進め方はさまざま。

構成員：大津地区は協議体の歴史が一番長い。平成28年12月から今までの協議や対応を時系列で公開できないか。市に頼らずに地域でできることがあるかもしれない。見てみたい。非公開か。地域の問題もあると思うが、仕事のやり方を事例としてフローにして欲しい。

構成員：同様の意見になるが、新しく設置した地区で、目的の共有やあり方の検討といった説明があったが、具体的にしてもらえると良い。これから協議会を立ち上げる地域の参考になる。

事務局：検討したい。

4. 報告

(1) 地域支え合いガイドブックの配布について（資料8）

- ・ご協力により完成、配布を開始した。
- ・相談や出前トークで活用している。

(2) 生活支援体制整備事業 研修会について

- ・5月27日（月）15時から17時で開催する。

- ・さわやか福祉財団から講師を招く。
- ・生活支援体制整備事業、支え合い事業の進め方、生活支援コーディネーターとの連携等について学ぶ。

5. その他

構成員：支え合い協議会を立ち上げた最初の頃と議論が変わってきた。当初は「何をやらされるのか」という意見が多かったように思うが、今は、地域のことをみなさんが良く考えて議論されている。その状況の変化、ここでの協議内容を他部局は知らないのではないか。地域医療を考えている健康部は知らないのではないか。子どものこと考えている子ども育成部は知らないのではないか。「我ごと、まるごと」とは言いつつ、高齢者も子どもも地域での取り組みは、同じであることを知らないのではないか。市の中で情報が共有されていないのではないか。役所のなかで横串をとおす組織やプロジェクトをつくり、情報共有する仕組みを、まずは考えるべき。

構成員：このような意見が出ていることを形にしないといけない。市役所が縦割りで話が進まない。児童や障害の部署とも話し合ってみればいい。何が起きるかわからないが、やってみる価値はある。横須賀市が目指すのが地域共生社会ならば、同時に進めたらよいのではないかと。さまざまな課題が見えてきて、支え合い協議会に関わる課題があるかもしれない。さらに厚みのあるものをつくらないといけないかもしれない。それを同時にやっていく時期ではないか。

座長：いただいたご意見を踏まえ、ひとつずつ取り組みを進めたい。引き続きのご協力をお願いしたい。

次回会議の日程について調整の結果、8月6日（火）14時～16時 市役所5階 正庁で開催予定とした。

また、第3回以降の予定として、11月12日（火）14時、令和2年2月6日（木）を開催予定とした

高齢福祉課長の閉会の挨拶により会議は終了した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。